湖北地域の高度急性期・急性期医療を考える研究会　報告書

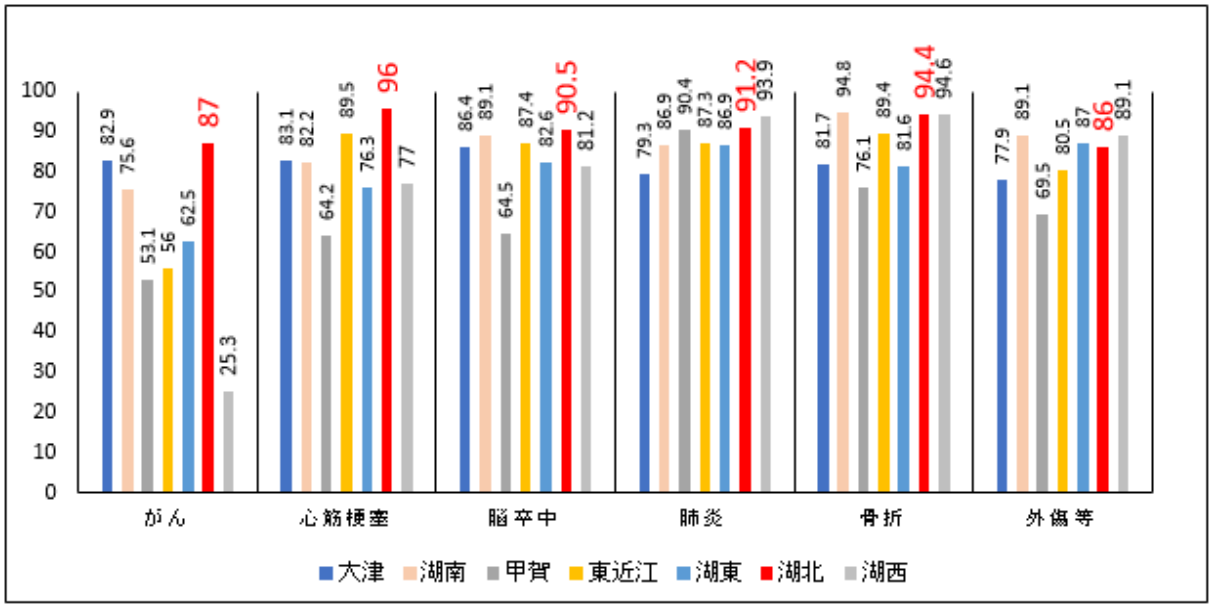
病気になったとき　長浜・米原で
安心して医療を受けることができているの？

安心してください。
長浜・米原は、県内トップの医療完結率であり、高度な医療を受けることができています。

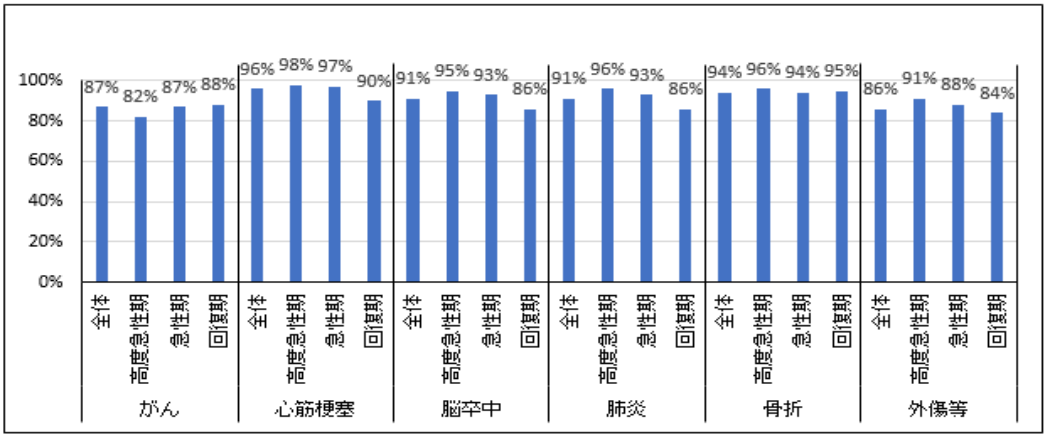
区域完結は

湖北地域は、他の地域と比べて、どの疾患も県内トップの医療完結率の高さです。
遠くの病院に行かなくても、高度な医療を受けることができています。

■構想区域ごとの疾患別区域内完結率　　出典：滋賀県地域医療構想データより作成



■湖北区域の主な疾患別完結率　　出典：滋賀県地域医療構想



医療機能別にみても、湖北地域で治療を受けることができています。

しかし

裏面へ⇒

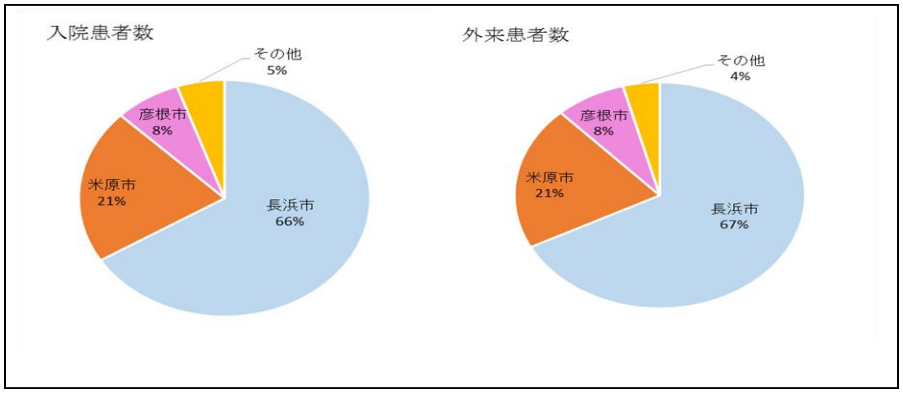
今までは、それぞれの病院の切磋琢磨により、湖北地域の医療が守られてきました。
しかし湖北地域は高齢化や人口減少が進んでいます。
これからも、この高い医療水準を維持していくためには、
課題があり、その解決が必要です。

湖北地域の高度急性期及び急性期医療については、市立長浜病院と長浜赤十字病院を中心に、相互に連携協力を図りながら、それぞれの努力によって確保してきました。医療を取り巻く環境の変化に適切に対応し、将来にわたって湖北地域の医療を確保していくことが両病院の使命です。医師不足による脆弱な診療体制や厳しい経営状況を打開するため、両病院の連携協力を更に強化し、地域住民に強く発信することが重要であるとの認識を一にしました。

「湖北地域の高度急性期・急性期医療を考える研究会」では、この共通認識のもと、市立長浜病院、長浜赤十字病院、湖北医師会、長浜保健所及び長浜市が湖北地域及び両病院の現状と課題について議論を行い、その内容を取りまとめました。

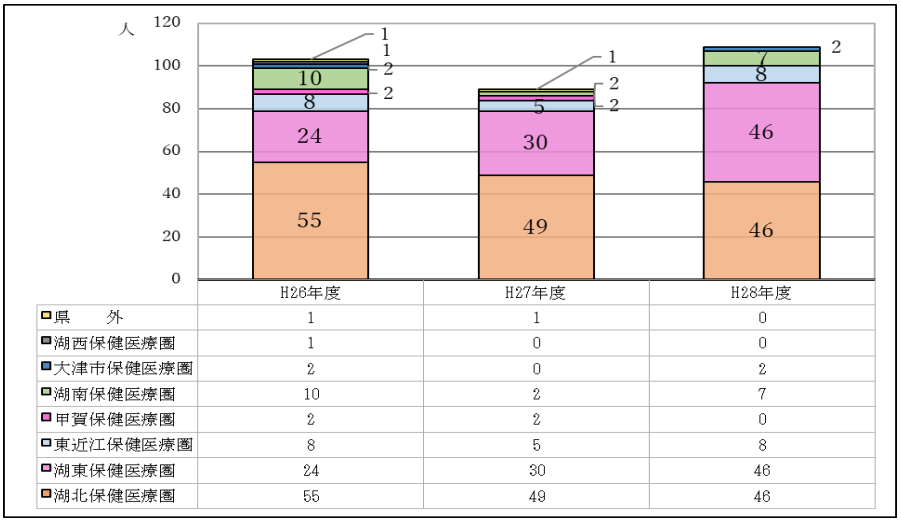
課題１　高度医療の提供体制の維持と拡大

■患者分布状況（H30.2月）出典：市立長浜病院/長浜赤十字病院データ



長浜赤十字病院と市立長浜病院で治療を受ける患者さんの約8割が湖北地域の住民です。

■長浜赤十字病院NICUの入院患者数　出典：長浜赤十字病院データ



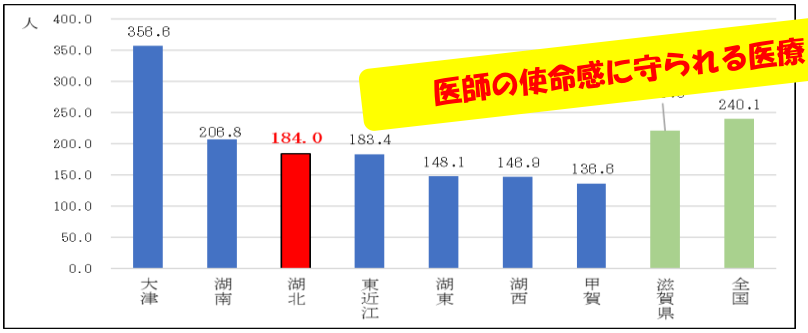
	H26年度	H27年度	H28年度
県　　外	1	1	0
湖西保健医療圏	1	0	0
大津市保健医療圏	2	0	2
湖南保健医療圏	10	2	7
甲賀保健医療圏	2	2	0
東近江保健医療圏	8	5	8
湖東保健医療圏	24	30	46
湖北保健医療圏	55	49	46

長浜赤十字病院は滋賀県の地域周産期母子医療センターとして位置付けされていることから、県内全区域、さらに近隣府県まで広範囲からの患者の流入が続くものと予想されます。

今後、人口減少に比例し患者数も減少傾向が予想されますが、高齢者の増加により医療需要は高まるため、現在の医療水準を湖北で維持･拡大する必要があります。
そのためには、湖東も含めた需要を見込み、市民が安心して暮らすことができるよう、医療を確保していく必要があります。

課題２　医師の働く環境の整備

■滋賀県内医療圏域別　医療施設に従事する人口10万対医師数（H28.12.31現在）



医師の使命感に守られる医療

全国や滋賀県と比べ、医師が多くないなか、湖北地域の高度急性期･急性期医療が高い水準で維持されています。

出典：平成28年医師・歯科医師・薬剤師調査

その背景には、医師の一人ひとりの使命感による尽力と自己犠牲があります。
しかし、その負担は大きく医師の疲弊にも繋がっています。

今後も湖北圏域の質の高い医療を維持するには、医師の働き方改革やチーム医療の実現に向けての取り組みも踏まえて、医師の働く環境を整備する必要があります。

課題３　専門医の確保

市立長浜病院と長浜赤十字病院は、お互い足りない部分を補って、湖北地域の高度急性期･急性期の医療を守っています。

■２病院の連携（H30.5.1現在）

診療科目等	時期	背景等	連携内容
呼吸器内科	平成27年4月～	長浜赤十字病院の呼吸器内科常勤医が不在となった	長浜赤十字病院の呼吸器疾患の入院患者で、以下のことについて長浜病院に治療相談をする。 ･疾患の急性憎悪時の治療相談 ･治療の改善が見られない場合の治療方針の相談
消化器内科	平成29年4月～	長浜病院の消化器内科の常勤医が不在となった	長浜病院で緊急内視鏡等、院内対応できない場合は、長浜赤十字病院へ搬送する
小児科	平成30年4月～	長浜病院の小児科常勤医が不在となり外来縮小、入院受入及び救急対応ができなくなったこと	長浜病院で受入できない小児科の外来･入院患者を長浜赤十字病院で受入 長浜赤十字病院で小児救急を対応
産婦人科	平成30年4月～	長浜病院の小児科常勤医が不在となった	･ハイリスク妊婦等、早い段階で長浜赤十字病院へ紹介する ･帝王切開等で出生した新生児が小児科医の管理が必要となる場合は、長浜赤十字病院への転院を依頼する ･35週以前で明らかに新生児管理が必要な時期で帝王切開が必要と判断される場合は、原則、長浜赤十字病院へ搬送する。この場合に、応援依頼があれば長浜病院の産婦人科医も協力する。 ･GradeA超緊急帝王切開術が必要となる場合は長浜病院で緊急帝王切開を行い、長浜赤十字病院小児科へ新生児の転院を依頼する ･救急外来で、診察の結果、早産などで長浜病院での管理が困難な場合は長浜赤十字病院へ搬送する
臨床研修		指導医が不在で自院で研修できない診療科がある	指導医が不在で自院で研修できない診療科について、両病院が連携協力して研修できるよう研修プログラムを構築

■２病院の現在の状況

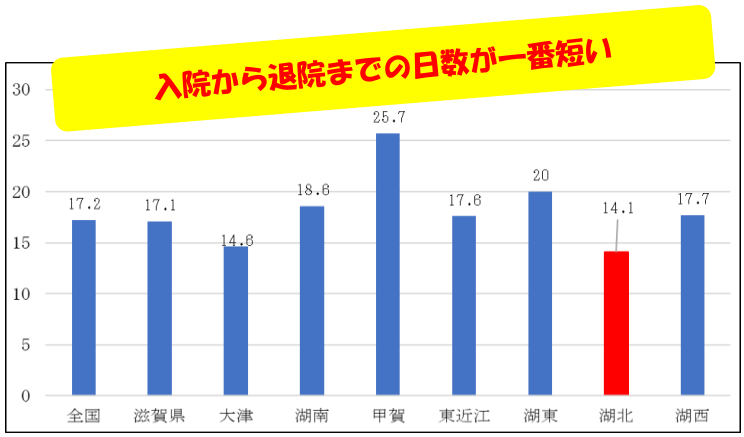
※消化器内科については、平成31年4月より長浜病院が常勤医4人体制となり、2病院それぞれ診療を行っている。
※小児科については、平成31年4月より長浜病院に常勤医が1人着任し、少しずつ外来･入院患者を受け入れながら、上記の連携も行っている。

今まで両病院が守ってきた、湖北地域の高度急性期･急性期医療を、将来も堅持できるか危機感を持っています。これからも両病院の医療提供体制をしっかりと維持していくためには、医師の疲弊を防ぎ、専門医を確保することが必要です。1診療科1人医師の勤務は敬遠され、複数医師によるチーム医療体制が求められており、湖北地域に必要な診療科を確保しつつ、両病院の連携協力により維持発展していく必要があります。

課題４　地域包括ケアシステムの維持・発展、地域完結型医療の提供

湖北地域では、急性期を経過した患者さんが、早い時点で自宅に戻れる仕組みが整ってきています。

■平均在院日数（単位：日）　　出典：平成25年病院報告



湖北地域では、関係機関の強力な連携推進により地域ケアシステムが浸透し、病診連携や訪問診療、訪問看護が充実してきています。早い時点での在宅復帰や次の施設への移行が行われています。

これからも、急性期から回復期･慢性期･在宅療養等に移行する入院患者や家族が安心して退院できるよう、退院調整機能を強化する必要があるとともに、病診連携の強化や後方支援病院の役割も期待されます。

高齢化の進展に伴い、複数の疾患を持つ患者が増えており、病院内の各診療科のパイプ役となる総合診療医を配置する必要があります。

課題５　施設設備・医療機器の充実

市立長浜病院及び長浜赤十字病院ともに、本館建設から相当の年数が経過しています。また、高額な機器が更新する時期を迎えたことから、効果的に投資する必要があります。

項　目	市立長浜病院			長浜赤十字病院		
開設日	昭和 19 年 6 月 （平成 8 年 5 月現在地に新築移転）			昭和 7 年 4 月		
敷地面積	70,991.23 ㎡			21,881,61 ㎡		
建築年次	本館	別館	診療支援棟	本館（西）	本館（東）	2 号館
	H８年 （築 22 年）	H14 年 （築 16 年）	H27 年 （築３年）	H11 年 （築 19 年）	H13 年 （築 17 年）	H24 年 （築６年）
構　造	鉄骨鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ 地上７階	鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ 地上３階	鉄骨 地上４階	鉄骨造 地上 10 階	鉄骨造 地上 10 階	鉄骨造 地上５階
病床数	６００床（休床１１４床） （一般　496 床、療養 104 床）			５０４床 （一般 430 床、精神 70 床、感染症 4 床）		

湖北地域の高度急性期・急性期医療を考える研究会　まとめ

医療の確保は、市民が安心して暮らすまち、生涯現役で活躍できるまち、安心して年を重ねるまちを創ります。医療を提供する病院は、若者の雇用の場であり、湖北地域の地方創生に繋がります。

市立長浜病院と長浜赤十字病院においては、両病院の主体的な連携と協力に取組んでいただきたい。特に、医師の確保については、喫緊の課題として具体的な方策の検討を進めていただき、市民の安心につながる積極的な発信を行っていただくことを提起します。

長浜市においては、市民の安心につながることを踏まえ、両病院の連携と協力に関する取り組みを市民に公開する協議の場を整えていただきたい。また、両病院の連携と協力が強化される取組みに対しては、公的な制度の活用も含め必要な支援を検討されることを提起し、研究会のまとめとします。

■お問い合わせ
地域医療課

詳しくは、市HPをご覧ください。